

1. 単元名 「奈良県の伝統工芸品『奈良墨』」

2. 単元の目標

奈良県の伝統工芸品である「奈良墨」に触れ、その魅力や技術、歴史について理解を深めるとともに、伝統工芸士の仕事や思いを知り、ものづくりの楽しさや、伝統文化を継承することの大切さを学ぶ。

3. 単元について

(1) 教材観

本学習で取り扱う「奈良墨」は奈良県の伝統工芸品であり、その製法は約1300年にわたり受け継がれてきたものである。この墨は、濃淡の調節ができ、美術工芸品としての良さがあるほか、墨の独特の香りを有しているなど多くの魅力がある。しかしながら、もともと40件近くあった奈良の墨屋は現在は8件に減り、墨職人も200人以上いたが、一通りの仕事のできる職人は10人不足である。さらにその生産量は70年前と比べ約30分の1にも減少している。

このように深い歴史を持ち、一つ一つ職人の手仕事によって生み出され、魅力にあふれている「奈良墨」だが、現状は需要の減少、後継者不足の問題から存続の危機に陥っていることを児童に捉えさせたい。

ゲストティーチャーには100年以上にわたって奈良墨を作り続けている錦光園に協力を依頼し、にぎり墨体験を行う。そこで、職人の方の奈良墨に対する想いを聞き、さらにその現状や課題、そのための方策についても話してもらう。

(2) 児童観

児童にとって「奈良墨」は、年間を通して習字の時間に削って使用してきた身近なものである。しかしながら、児童は固形墨をつかうことの良さについてはあまり実感しておらず、液体墨のほうが楽で使いやすいというような感想を抱いている。また、児童は使っている固形墨の多くが奈良で作られていることは授業で学んだため知っているが、それが奈良県の伝統工芸品であることや、どんな歴史があるのか、どうやって作られているのか、職人の方がどのような思いを持って「奈良墨」を受け継いだのかなどはほとんど知らないのが現状である。

3年生の児童にとって総合的な学習は今年度から初めて学習するものであり、具体的な体験を通して理解を深めるとともに、新たな発見をすることで興味関心を高め、意欲的に探求活動に取り組むことを目標にしたい。

(3) 指導観

上記の現状より、児童には普段何気なく使っていた「奈良墨」が、奈良県の伝統工芸品であり、沢山の魅力があるからこそ長年受け継がれてきたということ、そしてそこには職人の思いがこもっていることを体験学習を通して気づかせたい。

児童にとって固形墨は、授業で習字のためにつかう道具であり、効率のために液体墨の方を多く使っている。そのため、児童は固形墨の良さにまで目を向けることができていない。児童に固形墨に興味をもたせるために、まず導入の段階で、香り墨や墨のお香を焚きその香りの良さを実際に感じさせたい。これにより児童が今回の学習に主体的に取り組むことを狙いとする。固形墨について調べ学習を通して学んだあとには、固形墨と液体墨を比較することから、なぜ固形墨が今も作られているのかという疑問を持たせたい。その解決のために、実際に墨職人の方に来てもらい、にぎり墨体験をしたり、直接想いを聞いたりすることによって、固形墨の香りに加え、濃淡を調節できることや筆運びの伸びもよいことなどの魅力を実感することにつながるようにしたい。さらにその魅力を繋いでいくために職人の方が努力してきたことにも気づかせたい。そこから奈良に「奈良墨」のような伝統工芸品があることを誇りに思うとともに、奈良県の他の伝統工芸品や他の都道府県の伝統工芸品にも興味をもたせるようにしたい。そのうえで、自分の興味を持った伝統工芸品について発表を行い、魅力を周りに広げていけるようにしたい。

(4) ESD との関連

- ・ 本学習で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

連携性・・・墨を作っている人は、課題解決のためにいろいろな協力を得て活動している。

責任性・・・伝統工芸品という長年受け継がれてきたものを大切にしていけないといけない。

- ・ 本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

クリティカルシンキング：自分たちの身近にある伝統工芸品にこめられた、様々な人たちの努力や思い、願いなどに着目する。

- ・ 本学習で変容を促す ESD の価値観

世代間の公正を重視する

世代を超えて受け継がれてきたものを次につなげていくことの大切さ

人権・文化を尊重する

奈良・日本の文化に触れ、それを尊重できる

また、そこからいろいろな文化に目を向けられるようになる

- ・ 達成が期待される SDGs

4 質の高い教育をみんなに

12 つくる責任 つかう責任

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に組む態度
地域の伝統工芸品の特徴や歴史、それに関わる人々の取り組みや想いを理解している。	奈良墨への関わりを通して感じた関心をもとに、他の伝統工芸品を調べ、発表しようとしている。	学習や体験活動を通して得た知識を生かしながら、学習に取り組んでいる。

5. 単元の指導計画（全 11 時間）

時	主な学習計画	学習への支援	評価（△） 備考（・）
1	<p>○固形墨を使用した御香を体験し、固形墨に興味を持つ。</p> <p>○この固形墨は奈良で約90%作られており、「奈良墨」ということ、これが奈良県の伝統工芸品であることを学ぶ。</p>	<p>・香りだけでなく、実際に使ってみて感じた固形墨の良さについて考えさせるとともに、固形墨への興味をもたせる。</p> <p>・なぜ奈良で作られているのか疑問を抱かせたい。</p>	△ア
2～4	<p>○固形墨がいつから、どうやって作られているのか、それはなぜなのかについて学ぶ。</p> <p>○液体墨が作られるようになったにも関わらず、固形墨が続いてきた理由について考える。</p> <p>・なぜ固形墨？</p> <p>・どうやってそんなに長く受け継がれてきた？</p>	<p>・墨ができるまでは動画を視聴させる。</p> <p>・墨の歴史については、クイズ形式で学べるようにする。</p> <p>・固形、液体を使った上で感じたことを話し合う。</p> <p>・固形墨が今も作られていることへの疑問を持ち、ゲストティーチャーに聞きたいことを考えさせる。</p>	△ア
5～7	<p>○ゲストティーチャーに来てもらい、にぎり墨体験、職人の方の話から、固形墨への想い、受け継がれてきた理由、固形墨の魅力、その現状や課題を知る。</p> <p>・固形墨にはこんな良さがあったんだ。</p> <p>・次の習字の時間に調べてみよう。</p> <p>・長く受け継がれてきたのにはこんな理由があったんだ。</p> <p>○奈良の伝統工芸品である固形墨の良さについて触れ、他の伝統工芸品にも目を向ける。</p> <p>・奈良にこんな伝統工芸品があったんだ。</p> <p>・奈良に他の伝統工芸品はあるのかな。</p> <p>・他の県の伝統工芸品はどんなものがあるのだろう。</p>	<p>○良さを実感できるように体験活動を行う。</p> <p>○職人の方に実際に来てもらい、直接想いを聞けるようにする。さらに、その現状や課題、そのための方策についても話してもらおう。</p>	△ウ
8～11	<p>○伝統工芸品を調べ、その魅力や良さについて知る。</p> <p>・奈良筆</p> <p>・奈良墨</p> <p>・信楽焼</p> <p>・西陣織</p> <p>・京友禅</p>	<p>・自分の興味関心を基に調べさせる。そのため、奈良県に限定せず、近くの県、ゆかりの県などにも目を向けさせるようにする。</p> <p>・調べる伝統工芸品を決めるときには、家にあるもの、見たことがあるものなど、子どもたちの生活の中で触れているものがないか考えさせる。</p>	△イ △ウ

	<p>○調べた伝統工芸品について発信する</p>	<ul style="list-style-type: none">・なかなか調べたい伝統工芸品が出てこない児童のために奈良県の伝統工芸品を紹介する。・高山茶筌・奈良筆・奈良墨・赤膚焼・鹿角細工・奈良団扇 <ul style="list-style-type: none">・クロームブックを用いてスライドにまとめる。・学級内と家族に発表する機会を設ける。	
--	--------------------------	--	--